

タイトル：不動坂口女人堂

不動坂口女人堂は、高野山に残された最後の女人堂です。明治時代(1868-1912)が始まるまでは、境界から先は女性が通れないことを示す入口のすぐ西側にありましたが、現在では、高野山駅から1番最初の停留所の隣にあります。それ以前は、厳しい宗教の戒律により、女性が高野山の寺領に入ることは禁じられていました。女性の巡礼者へ宿を与えるだけでなく、不動坂口女人堂は、不動坂と高野山の間や、女人道を旅する老若男女が集い、休息する場所としての役目を果たしました。

郷土史によると、この場所に最初の不動坂口女人堂を建てたのは、越後（現在の新潟県）で育った、小杉という名前の尼でした。完成後、小杉は女人堂に暮らし、女性の巡礼者の世話をし、宿泊させました。現在、小杉は女人堂の鎮守の神として祀っています。

明治時代、この建物は修理されないままになりましたが、それ以降は改修され、現在では参拝所として機能しています。現存している不動坂口女人堂は、女人道にあった他の多くの女人堂より大きく、内部には、この建物や歴史に関する写真など、歴史資産が収められています。

史料や絵画によって、高野山の歴史が始まって以来、いろいろな時代に渡って、この場所には数多くの建物があったことが明らかになっています。女人堂の他にも、旅人や巡礼者の必要に応じるため、小さな店や神社が建てられていました。

聖山、高野山周辺の歴史的な女人道は、約7kmの女人堂巡りコースと約9kmの高野三山巡りコースのような、この場所を周る3つのハイキングコースで構成されています。さらに、巡礼者たちが、かつて極楽橋から山に登っていた不動坂コースは、不動坂口女人堂が終点となっています。